

2021年10月20日刊行の第2刷に誤りがございました。謹んでお詫び申し上げ、ここに訂正いたします。(2021年10月18日、11月18日、12月21日、2022年2月7日、3月28日追加)

訂正表

2刷(10月20日刊行)の修正点

●本文

53頁15行目

(誤) 上海の学者・姚廷遴

↓

(正) 上海の知識人・姚廷遴

108頁6行目

(誤) 北京の翰林院(詔勅などの文章を起草する官庁)の役人になると

↓

(正) 北京の翰林院(将来重用する若手エリート官僚を集めておく機関)に属すと

134頁10行目

(誤) 二〇〇六、〇八、一一年

↓

(正) 二〇〇六、〇八、一一、一四、二一年

146頁7~8行目

(誤) しかし、清の康熙帝(第四代皇帝)や乾隆帝は、巡幸で曲阜の孔廟(孔子を祀った廟)を訪れていたが、「孔府菜」なるものを食べていたとは考えづらい。

↓

(正) ただし、清の康熙帝(第四代皇帝)や乾隆帝は、巡幸で曲阜の孔廟(孔子を祀った廟)を訪れても、宮中のコックを引き連れていたので、孔府の料理を食べることは少なかった。

262頁16行目

(誤) 「バインテット (bánh tét, 餅越)」

↓

(正) 「バインテット (bánh tét, 餅節)」

325 頁 12～13 行目

(誤) 「熟手」たちも独立して料理屋を始め、そのなかの一つの「明月館」(一九〇九年創業)

↓

(正) 「熟手」たちも独立して民間で料理業に従事し、そのなかの一つと考えられる「明月館」(一九〇三年創業)

353 頁 3～4 行目

(誤) 一九〇七～八年頃、仁川の山東会館の食堂のメニューとして出され始めたと考えられている。

↓

(正) 一九〇七～八年頃には、仁川の山東会館の食堂のメニューとして出されていたようである。

465 頁 16 行目

(誤) ルクセンブルクや首都・アントワープの

↓

(正) ベルギーのアントウェルペン、そしてルクセンブルクの

487 頁 1 行目

(誤) 在ペルー清国大使館

↓

(正) 在ペルー清国公使館

532 頁見出し

(誤) ③ラーメンの語源——「鹵麵」と「好了」

↓

(正) ③ラーメンの語源——「柳麵」と「好了」

532 頁 6 行目

(誤) 広東系の餡かけ麵である「鹵麵 (ルウメン)」であるとする説が有力である

↓

(正) 広東系の細い汁麵である「柳麵 (ラウミン)」であるとする説が有力である

●主要参考文献

22頁左段 19行目

(誤) 董竹君『我的一个人生』

↓

(正) 董竹君『我的一个世紀』

35頁左段 13行目

(誤) 金括

↓

(正) 金恬

●註

57頁左段「(1) 外村 (2003: 10–13, 19, 26) ; 佐々木 (2009: 204) ; Cwiertka (2006: 138–155; 2012: 33–43)」の最後に以下を追加

; 予 (2013: 174)

66頁右段

(誤) (11) 安藤・奥村 (2017: 264-267)

↓

(正) (11) 近代食文化研究会『お好み焼きの戦前史』第二版 (Kindle 版, 2018年)

●索引(赤字のページに訂正)

1頁 アイゼンハワー (ドワイト・D) 405